

速 報

最近 (1981年1月～'82年6月) における
MCLS (川崎病) の実態

—第7回全国調査結果の速報—

川崎病研究班*

いわゆる川崎病 (急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群, MCLS, 第9回修正 WHO 国際疾病分類の基本分類番号 446.1) については, 1970年に第1回全国調査がおこなわれたが, 以後1972, '74, '76, '79, '81年にそれぞれ第2, 第3, 第4, 第5, 第6回全国調査が実施され, 1980年12月末までに累計29,072名の本病患者 (含容疑例) が把握された。

今回の第7回全国調査は, 1981年1月1日より'82年6月30日までの本病初診患者につき調査を依頼したもので, ここに速報するのは1982年11月末までに回答を寄せられた分についての集計である (今後さらに症例の報告が追加される見込み)。なお, 本集計では2カ所以上の医療施設から報告された患者についての重複チェックをおこなっていないので, 実患者数はここに示された数よりやや減少する可能性がある。

本全国調査は, 第1回以来常に全国の小児科併設100床以上の病院を対象に実施されている。なお, この方式の調査対象と全医療機関を調査した結果とを特定県 (静岡・千葉) で比較すると, 前者より後者の患者数が約10%増となることが判明している [窪田誠一: いわゆる川崎病 (急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群) の疫

学的研究, 日医大誌, 45: 321~337, 1978]。

今回の第7回全国調査において, 調査を依頼した施設数は1,940カ所, そのうち回答をいただいたのは1,470施設 (1982年11月末現在) で, 回答率は75.8%であった。前回は, 1979年1月1日より'80年4月30日までの患者を対象に調査をおこない, 70.9%の回答を得た。また, これらの回答施設を対象に1980年5月1日より12月31日までの患者について追加調査を依頼し, 回答率は66.0%であった。1979~'80年の2年間通算の回答率は70.7%となる。

以下に結果の要点を列記する。

1) 初診患者についてみた本病の年次別発生数 (概数) は, 1981年6,300例, 1982年1~6月12,000例, 計18,300例であった。第1表および第1図に示す患者発生の年次推移から明らかのように, 男女とも1968年以来患者数の急増傾向がみられ, 1979年には6,867例の発生があり, 前年の2倍の流行であった。1982年には1~6月の6カ月間だけで12,000例に達し, 今までに経験したことのない大流行となった。

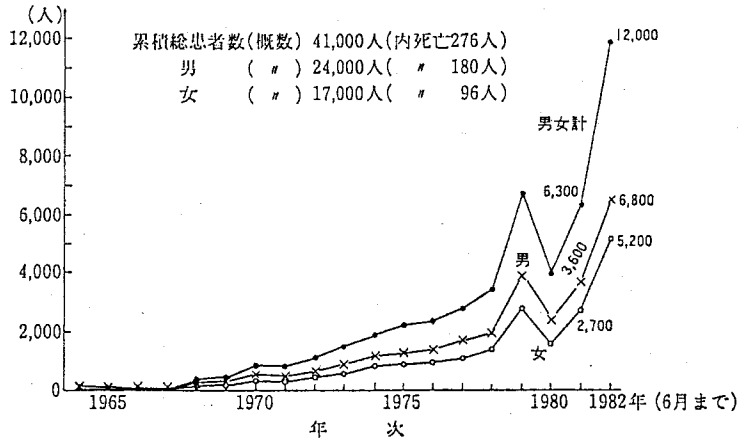
2) 死亡は1981年16例 (男9, 女7), 1982年34例 (男22, 女12), 計50例 (以前の分を加えた累計は276例) で, 致命率は0.3%と前回 (第6回調査, 1979~'80年) の0.4%よりやや低い。

3) 性別では, 男10,400例, 女7,900例で,

* 班長: 草川三治
全国調査担当: 爪松逸造, 柴田茂男, 柳川洋
〔連絡先〕 〒108 港区白金台 4-6-1
国立公衆衛生院疫学部
TEL 03 (441) 7111; 内線 256

Key Words: MCLS/川崎病

—小児科—



第1図 MCLS (川崎病) の年次別・性別発生数
第1回～第7回全国調査 (1982年6月まで) (1981年および1982年は概数)

第1表 MCLS (川崎病) の年次別・診断の確実度別・性別初診患者数および死亡数 (第1回～第7回全国調査)

	計			確実			容疑			死亡例 (致命率%)
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	
計	41,000	24,000	17,000	36,700	21,600	15,100	4,300	2,400	1,900	276 (0.7)
1965年以前	88	58	30	67	45	22	21	13	8	1 (1.1)
1965	61	33	28	47	26	21	14	7	7	1 (1.6)
1966	79	49	30	57	35	22	22	14	8	0
1967	101	60	41	77	47	30	24	13	11	2 (2.0)
1968	310	177	133	261	149	112	49	28	21	8 (2.6)
1969	461	281	180	379	229	150	82	52	30	9 (2.0)
1970	887	527	360	700	417	283	187	110	77	11 (1.2)
1971	804	481	323	688	408	280	116	73	43	13 (1.6)
1972	1,135	658	477	979	570	409	156	88	68	18 (1.6)
1973	1,524	928	596	1,320	804	516	204	124	80	35 (2.3)
1974	1,963	1,157	806	1,704	1,009	695	259	148	111	20 (1.0)
1975	2,216	1,332	884	1,946	1,174	772	270	158	112	16 (0.7)
1976	2,337	1,406	931	2,023	1,229	794	314	177	137	16 (0.7)
1977	2,798	1,706	1,092	2,463	1,510	953	335	196	139	18 (0.6)
1978	3,459	2,064	1,395	3,067	1,844	1,223	392	220	172	14 (0.4)
1979	6,867	3,987	2,880	6,164	3,582	2,582	703	405	298	37 (0.5)
1980	3,932	2,317	1,615	3,549	2,098	1,451	383	219	164	7 (0.2)
1981 (概数)	6,300	3,600	2,700	5,900	3,400	2,500	400	200	200	16 (0.3)
1982(1～6月)(概数)	12,000	6,800	5,200	11,200	6,400	4,800	800	400	400	34 (0.3)

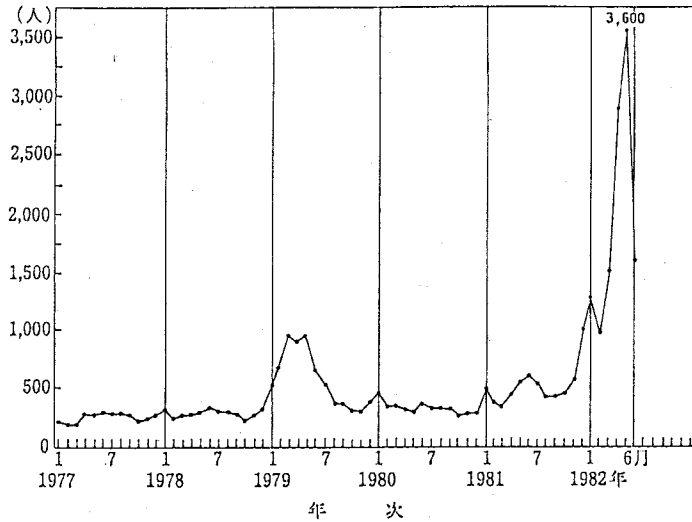
1) 過去の調査で報告された症例のうち初診年次不明50例はこの表には含まれていない。
2) 1981年、1982年の数字は1982年11月末現在の中間集計に基づいて作成された概数である。

男女比は1.3:1となる。従来はこの比が1.5:1であり、男女差がやや縮小した。

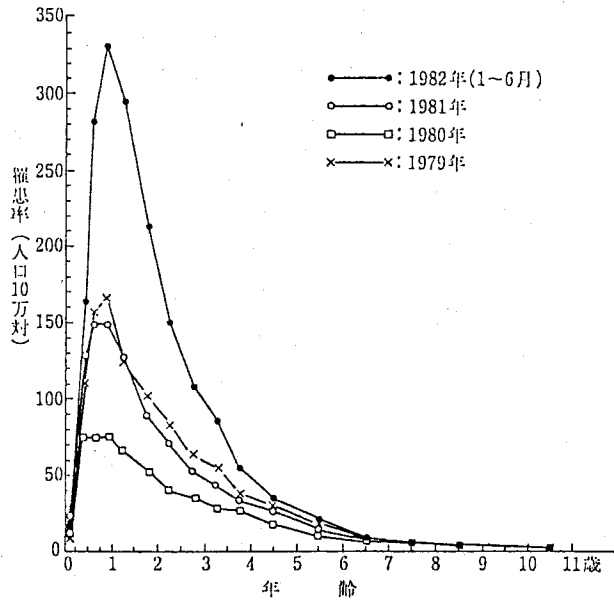
4) 初診患者の月別発生数を見ると、第2図に示すように1981年12月から患者は急増し、1982年5月には月間3,600例の発生がみられ

た。この値は1979年3～5月にみられた発生よりはるかに多い。

5) 性別・発病から初診までの病日別患者数は、男女とも第4病日が最も多く、次に第5病日が多い。前回は第5病日が最も多く、発病か



第2図 MCLS (川崎病)の初診月別発生数
第5回～第7回全国調査 (1982年6月まで) (1981年および1982年は概数)



第3図 MCLS (川崎病)の年齢別罹患率
第6回および第7回全国調査 (人口は1980年国勢調査人口による)

ら初診までの日数の短縮傾向が認められた。また、85%以上のものが10日以内に受診していた。

6) 初診患者について計算した年齢別罹患率(人口は1980年国勢調査人口による)を第3図で

みると、1979～'82年4カ年のいずれの年をみても生後9～11か月にピークがある。

7) 都道府県別・性別・診断の確実度別初診患者数(1982年11月末現在の概数、ただし調査票の回収によりさらに増加する見込み)および

第2表 MCL5 (川崎病) の年次別・府県別・性別・

	1981年									0~9歳 人口10万対 (1年間)
	男			女			計			
	確 実	容 疑	計	確 実	容 疑 ^{K)}	計	確 実	容 疑	計	
全 国	3,388	261	3,649	2,479	208	2,687	5,867	469	6,336	34.1
1. 北海道	160	11	171	120	15	135	280	26	306	35.3
2. 青 森	22	2	24	15	0	15	37	2	39	16.4
3. 岩 手	57	0	57	36	1	37	93	1	94	45.9
4. 宮 城	100	6	106	65	6	71	165	12	177	54.7
5. 秋 田	30	5	35	27	1	28	57	6	63	35.5
6. 山 形	107	3	110	82	0	82	189	3	192	104.1
7. 福 島	36	2	37	20	2	22	55	4	59	18.9
8. 茨 城	58	0	58	57	5	62	115	5	120	27.9
9. 栃 木	48	9	57	33	7	40	81	16	97	32.5
10. 群 馬	43	4	47	32	6	38	75	10	85	28.0
11. 埼 玉	101	8	109	84	4	88	185	12	197	20.0
12. 千 葉	146	9	155	116	8	124	262	17	279	33.2
13. 東 京	349	17	366	239	13	252	588	30	618	38.9
14. 神奈川	208	12	220	166	9	175	374	21	395	34.3
15. 新 潟	65	9	74	39	6	45	104	15	119	32.6
16. 富 山	41	1	42	24	1	25	65	2	67	39.4
17. 石 川	38	2	40	20	2	22	58	4	62	34.1
18. 福 井	23	5	28	7	3	10	30	8	38	32.7
19. 山 梨	17	1	18	10	0	10	27	1	28	22.6
20. 長 野	75	10	85	57	9	66	132	19	151	48.7
21. 岐 阜	80	3	83	68	4	72	148	7	155	51.5
22. 静 岡	105	10	115	97	7	104	202	17	219	39.1
23. 愛 知	178	14	192	142	15	157	320	29	349	32.1
24. 三 重	46	4	50	26	2	28	72	6	78	30.5
25. 滋 賀	31	6	37	19	2	21	50	8	58	30.2
26. 京 都	73	6	79	34	8	42	107	14	121	30.7
27. 大 阪	231	25	256	134	14	148	365	39	404	28.9
28. 兵 庫	112	16	128	80	7	87	192	23	215	26.0
29. 奈 良	57	6	63	48	4	52	105	10	115	57.8
30. 和 歌 山	34	1	35	25	1	26	59	2	61	37.7
31. 鳥 取	16	0	16	11	1	12	27	1	28	29.4
32. 島 根	12	3	15	10	0	10	22	3	25	21.5
33. 岡 山	37	8	45	23	4	27	60	12	72	24.3
34. 広 島	59	4	63	40	4	44	99	8	107	23.7
35. 山 口	47	8	55	38	3	41	85	11	96	41.8
36. 徳 島	24	1	25	11	2	13	35	3	38	30.0
37. 香 川	30	2	32	15	1	16	45	3	48	31.0
38. 愛 媛	38	2	40	25	2	27	63	4	67	28.7
39. 高 知	26	2	28	15	1	16	41	3	44	36.8
40. 福 岡	217	13	230	198	15	213	415	28	443	60.3
41. 佐 賀	15	3	18	21	3	24	36	6	42	31.8
42. 長 崎	32	0	32	21	1	22	53	1	54	20.8
43. 熊 本	51	1	52	42	1	43	93	2	95	36.5
44. 大 分	40	1	41	24	1	25	64	2	66	37.4
45. 宮 崎	18	2	20	14	2	16	32	4	36	19.1
46. 鹿 児 島	28	1	29	19	0	19	47	1	48	19.2
47. 沖 縄	27	3	30	28	5	33	55	8	63	28.8
住所不明	1	0	1	2	0	2	3	0	3	—

1) 1982年11月末現在の中間集計による。調査票の回収、重複報告例のチェックなどにより、数字の変更が見込まれる。

2) 率の計算に用いた人口は、1980年国勢調査人口(1%抽出)である。

診断の確実度別初診患者数

1982年(1~6月)

男			女			計			0~9歳 人口10万対 (6カ月間)
確実	容疑	計	確実	容疑	計	確実	容疑	計	
6,335	424	6,759	4,860	369	5,229	11,195	793	11,988	64.5
299	23	322	232	22	254	531	45	576	66.4
35	0	35	21	1	22	56	1	57	23.9
64	5	69	44	7	51	108	12	120	58.5
122	5	127	70	8	78	192	13	205	63.3
43	3	46	47	3	50	90	6	96	54.1
28	1	29	18	1	19	46	2	48	26.0
109	0	109	79	1	80	188	1	189	60.6
235	11	246	208	16	224	443	27	470	109.3
138	18	156	101	11	112	239	29	268	89.8
102	9	111	78	11	89	180	20	200	66.0
300	11	311	210	15	225	510	26	536	54.6
357	18	375	266	12	278	623	30	653	77.6
730	29	759	544	26	570	1,274	55	1,329	83.7
458	31	489	360	20	380	818	51	869	75.4
70	4	74	73	8	81	143	12	155	42.4
97	5	102	81	6	87	178	11	189	111.2
121	9	130	95	15	110	216	24	240	131.9
40	5	45	50	1	51	90	6	96	82.6
26	0	26	34	2	36	60	2	62	50.1
173	10	183	167	12	179	340	22	362	116.8
72	6	78	63	2	65	135	8	143	47.5
389	25	414	279	16	295	668	41	709	126.4
219	18	237	159	9	168	378	27	405	37.3
79	3	82	73	4	77	152	7	159	62.1
35	6	41	33	6	39	68	12	80	41.7
154	22	176	106	9	115	260	31	291	73.9
370	29	399	256	25	281	626	54	680	48.7
282	31	313	202	28	230	484	59	543	65.7
38	4	42	36	2	38	74	6	80	40.2
86	3	89	64	3	67	150	6	156	96.5
29	3	32	16	1	17	45	4	49	51.5
32	4	36	26	3	29	58	7	65	56.0
120	4	124	79	7	86	199	11	210	70.9
178	16	194	142	12	154	320	28	348	77.2
64	9	73	71	6	77	135	15	150	65.3
26	3	29	25	3	28	51	6	57	44.5
41	4	45	24	4	28	65	8	73	47.1
44	2	46	35	3	38	79	5	84	36.0
21	2	23	13	3	16	34	5	39	32.6
199	12	211	157	12	169	356	24	380	51.7
38	5	43	27	4	31	65	9	74	56.1
68	3	71	54	4	58	122	7	129	49.8
40	2	42	37	0	37	77	2	79	30.3
60	5	65	29	3	32	89	8	97	54.9
41	0	41	22	0	22	63	0	63	33.4
46	5	51	48	0	50	94	7	101	40.3
12	1	13	4	0	4	16	1	17	7.8
5	0	5	2	0	2	7	0	7	—

0～9歳人口10万対の発生率（1981年は1年間合計の率，1982年は1～6月の率）を第2表に示した。まず1981年の年間発生率をみると，山形が他府県より著しく高く，104であった。ついで高い県は，福岡60，奈良58，宮城55などとなっていた。低い県は青森16，福島，宮崎，鹿児島19であり，全国平均34となっていた。

次に1982年について6カ月間発生率をみると，石川132，静岡126，長野111，茨城109などが高く，沖繩8，青森24，山形26，熊本30などが低かった。全国平均は65で，6カ月間の集計であるのに，すでに前年1年分の約2倍の値となっていた。

8) 患者の治療状況をみると，抗生物質の使用ありは33%，使用せずは65%，不明2%であった。ステロイドの使用ありは9%，使用せず

は90%，不明1%で，抗生物質，ステロイドともに以前の使用に比べ激減している。

また，アスピリンの使用ありは91%，使用せずは8%，不明1%であり，大部分の患者にアスピリンが使用されていた。

9) 剖検は死亡例50例のうち男13例，女10例，計23例について実施され，全死亡例に対する剖検率は46%であった。

10) 全報告患者中同胞例ありと回答したものは2%であった。

11) 再発は3%にみられた。

謝 辞

第1回全国調査以来，終始変わらぬ御協力を賜った関係医療機関の各位に対し，本研究班として深く感謝します。

*

*

*

*

*

*

*